

AC14 コーラルウォッチ

実施のしかた (PDF)

1. 調査をする前に、生物としてのサンゴの特徴を参加者に伝えます。

動物であること、体のなかに光合成をする褐虫藻がいることなど、サンゴの基礎知識を伝えておきます。

*教材 13「サンゴクイズ」を事前に行うと効果的です。

*参考資料：ファクトシート「サンゴⅠ 多彩なサンゴは、生きている！」参照

2. サンゴが白化するプロセス、色の調査でサンゴの健康度が分かることを伝えます。

ブルーやグリーンなどの色を持つ美しいサンゴですが、じつはサンゴ自体には色がありません。美しい色は、サンゴのなかに共生する褐虫藻の色です。ところが高水温や低水温によるストレスが加わると、褐虫藻はサンゴから失われ、透明な体から骨格が透けて白く見えるのです。海水の温度が適温になるなどストレスが減少すると、褐虫藻はまた増えてくるため、サンゴの色も戻ってきます。このような理由から、色のデータを蓄積することで、サンゴの健康後の変化を知ることができるのです。

*参考資料：ファクトシート「サンゴⅡ サンゴ礁に迫る危機」参照

3. 「コーラルウォッチ」カード（色見本カード）の使い方、データの記入の仕方を説明します。

調査の仕方は、観察するサンゴの、もっとも色が濃いところと薄いところ、2か所の色を調べて記録をします。方法は、「コーラルウォッチ」カードの色見本と照らし合わせ、いちばん近い色味と濃さを選んで、その記号を記録用紙に記入します。同時に、海水温も測って記録をします。

4. 海へ行き、観察するサンゴを選びます。

海に行くときには服装（帽子をかぶる、足元は濡れてもいい歩きやすい靴など）を整え、天候や危険生物に配慮をし、安全に十分注意しましょう。

*特定のサンゴを継続的に観察する場合は、サンゴに名前をつけると愛着がわき、継続への意欲が高まります。

*サンゴを特定して調査をするのが困難な場合は、場所だけを決め、その範囲内でランダムに調査を行うという方法もあります。

5. サンゴの色を調べて、白化の程度を調査・記録します。

3. で説明した方法で、実際に調査・記録を行います。継続的に調査することで、気候など、環境の変化にともなうサンゴの白化状況が観察できます。できれば、一年のなかでの変化、数年単位での変化を記録していきましょう。

6. 周辺の環境で気づいたことを記録します。

調査ではサンゴだけでなく、調査を行ったサンゴの周辺で見られた、他の生ものの数やその状態、海水の濁り具合や砂浜の色の変化など、どのようなことでも気づいたことを記録しておきましょう。もしかしたら、それらはサンゴの健康度と関係があるかもしれません。